

# 知恵の集積から生まれる『知恵産業の森』の実現 〜京都経済センターと文化庁移転を追い風に〜



## 会頭 立石 義雄

オムロン株式会社  
名誉会長

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。  
昨年は、京都経済センターの建設工  
着工や文化庁の本格移転に向けた「地域  
文化創生本部」の開設、また北陸新幹線  
の敦賀以西ルート決定など、京都の将来  
にとっての大きな出来事がスタートした  
年となりました。本年は、オール京都の連  
携の力によって、未来から選ばれる京都  
づくりに向けた動きを一層加速させて参  
ります。

世界的な景気拡大や為替などの影響に  
より、一般の景気拡大が戦後2番目の長さ  
となっています。京都においても、インバ  
ウンド観光客の増加をはじめとする旺盛  
な観光需要を受けた観光関連産業や大企  
業を中心に、業績が改善しつつあります。  
一方で中小企業の現場では、深刻化する人  
手不足や後継者不在による事業承継難な  
ど、多くの課題を抱えています。世界的な

経済の好循環を中小企業にも波及させる  
ためには、自社の将来ビジョンのもとに、  
AIやIoT、ロボットなどの先端技術を  
活用して生産性の向上を促すとともに、働  
き方改革の推進や多様な人材の活用など  
によって、未来に向けた価値や賃上げの原資  
を生み出していくことが求められます。

内需主導による力強い経済成長を実現  
するためには、中小企業が持つそれぞれの  
知恵を活かし、独自の強みを発揮しながら  
イノベーションを創造していくことが必  
要です。本年は「京商ビジョンNEXT」の  
テーマである「知恵の集積」を加速させてい  
く飛躍の年です。これまでの知恵ビジネス  
に関する支援により、1,700社にまで広  
がった知恵ビジネス企業をさらに拡大し、  
京都の未来を拓く産業群として集積させて  
いくことが、中小企業の力強い成長に大き  
く寄与するものと確信しています。

「知恵産業のまち・京都」の基盤となり、  
イノベーションが発達される場となる  
のが、平成31年春に完成する京都経済セン  
ターです。本年は、その完成を間近に控える  
重要な1年であり、センターの機能強化  
や活用方法について、京都府や京都市、そ  
の他関係団体と大詰めの議論を進めてい  
くこととなります。「京都経済百年の計」  
にふさわしい拠点となるよう、完成に向け  
て全力で取り組んでいく所存です。

本年の干支は「戊戌」です。戌は、戌が  
変化したもので、植物の成長が絶頂期にある  
ことを示しており、また、犬は一度にたくさん  
の子を産むことから、安産の象徴となってい  
ます。京都経済センターの完成や文化庁の  
移転などを追い風にして、これまで集積し  
てきた知恵ビジネスが新たな知恵を生み、  
未来に向けて大きく生い茂る「知恵産業の  
森」を実現できるような年にしたいと思っ  
ています。

本年が皆さまにとって、実りある年となる  
ことを祈念いたしますとともに、本所活動  
への一層の参画をお願い申し上げます、新年の  
あいさついたします。

## やり抜く覚悟



副会長  
柏原 康夫  
株式会社京都銀行  
取締役相談役

謹んで新春のお慶びを申し上げます。  
アベノミクスから五年。金融政策を軸として円高回避による企業業績の押し上げなど、良好な経済環境を生み出した半面、その副作用も目立ち始めています。金利形成機能が損なわれ、将来不安解消のための財政健全化や社会保障改革は遅れ気味で、デフレ下で梁みついたコストカット最優先の姿勢は、今なお非常時の発想から抜け出せず、日本の強みであった「ものづくり」の劣化も懸念されます。  
事業のチャンスは変化の中にある時代、政府、企業そして個人の各領域において新たな仕組みづくりが不可欠となる中、与えられた課題に果敢に挑戦し、なすべき改革を「やり抜く覚悟」こそが求められています。目標を高く掲げ最後までやり抜く覚悟をもって自ら未来を切り拓く年としたものであります。  
本年もどうぞよろしく、お願い申し上げます。

## 潮目の変わる時代にこそ京都の力を!



副会長  
堀場 厚  
株式会社堀場製作所  
代表取締役会長

謹んで新春のお慶びを申し上げます。  
昨今の世界情勢は一層不透明感を増しています。英国のEU離脱に続いて米国がTPPPやパリ協定から離脱を表明し、東アジアでは北朝鮮問題が緊迫の度を増しています。  
産業界を見ても、自動車には自動運転やコネクテッドカーなど、全く新しい技術が求められており、異業種からの新規参入もあります。IoTやAIなどの新しいコンセプトによって多くの業界で技術、ビジネス両面で変革のスピードが加速しており、事業展開の時間軸も一桁短くなったと感ぜられます。  
このように潮目の変化が感じられる時代にこそ伝統と文化に根ざした京都企業が力を発揮できるのではないのでしょうか。  
個々の基盤と拠り所を大切に激流に臨み、未来をリードすべく共に進みましょう。皆様のご多幸と、実り多き一年をお祈りして新年のご挨拶といたします。

## 伝統と革新が生み出す“うねり”



副会長  
塚本 能交  
株式会社ワールホールディングス  
代表取締役社長

新年あけましておめでと、ございます。  
昨年は日本を含め、世界の至る所で情勢が緊迫しました。国内では、波乱含みの総選挙後に日経平均株価がバブル崩壊後の高値を超えるなど、多くの方が大きなうねりのようなものを感じられたのではないのでしょうか。  
伝統と革新を重んじる京都の風土は、長い歴史の中でいくつもの大きなうねりを生み出してきました。昨今では、会員の皆様をはじめ様々な方が、伝統ある京都の魅力を新たな形で広める取り組みを始めておられます。その一つが、革新的な大きなうねりを生み出すものと信じておりますし、これからの京都を担う人材が育つきっかけにもなると思います。  
本年が皆様に「ご多幸のある良い年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。」

## 独創的な知恵産業を育て未来の京都を育てよう



副会長  
服部 重彦  
株式会社島津製作所  
相談役

明けましておめでと、ございます。  
京都の製造業は電子部品・電子機器をはじめとして世界的にビジネスを展開しており、また、伝統産業や観光産業もインバウンド需要の増加で京都経済は活気に満ちています。京都がさらに成長し「価値創造都市・京都」を実現するには「ベンチャー企業の育成」が大きなポイントになります。京都には昔からベンチャー企業が育つ土壌がありますが、それを維持するには産学官の連携だけでなくファンドなどによる資金面での支援も必要です。来年3月に完成する京都経済センター(仮称)の主な機能に「交流と協働の促進」を掲げていますが、京都経済センターが「場」として中心的な役割を担えるよう皆さんと話し合っアイデアを出して、ければと考えております。独創的な知恵の連携拠点として、将来の京都経済を担う人材や企業育成の場となるよう、オール京都で知恵を出し合ってきたと思いますので、会員の皆様のより一層のご理解、ご協力をお願いいたします。  
本年が皆様に「ご多幸一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。」

## 文化庁の京都全面移転に期待



副会長  
若林 卯兵衛  
株式会社若林佛具製作所  
取締役相談役

新年あけましておめでどうございませう。本年が皆様にとりまして幸多き年になりますよう念じております。

昨年は政治、経済はじめ各分野において変化の多かった年であったと思ひます。その中で京都の工芸産業振興に携わっている者にとっては、文化庁の全面移転が決定されたことは誠に意義深く、今後全面的に協力をしていくとともに、守らなければならない文化財に対する調査、修理技術の保存、国産漆をはじめ原材料の確保等々、何よりもその為の予算確保が重要だと考えております。京都の近代産業や伝統産業の生産力と文化が協力し合った形での、総合的な「京都ブランド」を目指し、検討もしております。

京都経済センター（仮称）の完成に合わせて実現できたらと、本年もメンバー共々頑張つて参りますので、会員の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 活力あふれる京都を実現する



副会長  
山口 悟郎  
京セラ株式会社  
代表取締役会長

新年、あけましておめでどうございませう。景気回復や円安の後押しもあり、製造業をはじめとする京都企業の業績は、上向き傾向にあります。また、インバウンドを中心に、観光産業も一年を通して活況を呈しています。

活力あふれる京都の実現に向けては、南部エリアなどの開発で、企業の研究や開発など、付加価値の高いものづくりを行う部門を誘致し、京都経済全体の活性化を図るなどの方策があると考えています。

観光産業に関しても、集客といった量を追うだけでなく、京都の魅力をじっくり楽しんでいただく質の高さを追求するなど、バランスが大切であると考えています。

私自身は、生まれも育ちも京都です。伝統と先取の精神が息づく京都の風土の中で、固定観念にとらわれず、京都経済のさらなる成長に向けて、新たな一歩を踏み出せるよう、副会長として尽力してまいります。ご支援をよろしくお願い申し上げます。

## 京都経済センターから発信する京都ブランド



副会長  
野瀬 兼治郎  
啓明商事株式会社  
代表取締役会長

明けましておめでどうございませう。平成30年の新春を迎え謹んでお慶び申し上げます。

京都は世界でも有数の観光都市として注目を浴びている街です。特に、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催は、日本の伝統や文化、歴史を全世界にアピールできる絶好のチャンスであり、そこで京都が担う役割は非常に重要であることは間違いありません。

2019年に完成する京都経済センター（仮称）から、オール京都として知恵を結集し、京都ブランドを国内外問わず発信していくことは、京都経済の発展に繋がると考えております。

本年も微力ながら、副会長として京都経済のため尽力して参りますので、会員の皆様のご支援、ご指導・ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

